2022.11.17. 木曜礼拝　終わりの時の希望
エレミヤ書 37 章 38 章
JD ファラグ牧師

主よ、この礼拝の時を本当に感謝します。主よ、私たちが歌の中であなたを称えれることに感謝します。あなたがどんなお方であるか、あなたが私たちの人生で成してくださったことを認めます。この時、私たちはただ…私たちは今夜助けてもらうために、聖霊を送っていただく必要があります。主よ、一週間が過ぎ、世界でも私たちの生活でも、いろいろなことが展開されています。私たちは、そのすべてをただあなたに明け渡したいです。私たちが用意された御言葉に集中することができるように、それらをご存知の上で、受け取っていただけませんか？　主よ、御言葉を祝福し、この時間を祝福してください。もう一度、本当に感謝します。イエスの御名によって、アーメン。皆さんこんばんは。主を称えます。ー拍手ー
お座りください。ありがとうございます、ようこそ。オンラインで参加の方も歓迎します。大変嬉しく思います。早速ですが、来週はもう感謝祭だということを信じられますか？なんということでしょう。
来週の木曜日は感謝祭なので、聖書の学びはしないということを、念のためお伝えしておきます。翌週にまたエレミヤ書を再開します。今夜は、37 章と 38 章です。お許しください、私はまたこう言わなければなりません。なんということでしょう、これらの章は…今夜は覚悟してください。なぜなら、かなり強烈だからです。ただただ非常に力強く、この 2 つの章には、これから見ていくように、私たちの人生に適用できる多くの教訓や学び、事柄が織り込まれています。もう一度祈りましょう。御言葉の中で共に過ごす時間に神の祝福を求めましょう。宜しければご一緒に。
天のお父さま、ありがとうございます。感謝します、感謝します。主よ、感謝します。
主よ、木曜日の夜にこのような聖書の学びができることを、心から感謝しています。私たちの多くは、週の真ん中に、週末に向かって、この場所に来て、御言葉の中で、互いに交わり、礼拝する時間を持つことができます。養われ、語られ、落ち着かせられ、ある意味で再調整させられます。私たちは、生活の中で忙しさやストレスを感じ、特に今週のように、たくさんのことが起こり、すべてが急速に変化していく中で、すべての調子を崩してしまいます。これらは世界的に、地球規模で、預言的に大きな動きとなっています。このことは、私たちがいかにラッパの音に近づいているかを示す新たな指標となります。それは、私たちにとって何よりの励みです。ですから主よ、そのことに感謝します。
主よ、今夜はこのような時間を設け、一週間のハイライトとして多くの人が楽しみにしています。私は個人的に、ある意味で別の意味で、日曜日の朝、特に預言アップデートよりも、木曜日の夜の聖書の学びを教えることを楽しみにしています。これは私たちにとって特別な時間です、主よ。ですから今、あなたの御言葉に触れるとき、主よ、どうかお願いします。私たちが共に過ごす時間を祝福してください。私たちはこの聖書の学びの場に、あなただけがご存知の、私たちの心の中にあるもの、心に重くのしかかっているものをたくさん持ってきました。だから、主よ、あなただけがお出来になるように、いつもとても忠実であられるように、今夜、それを語っていただけませんか。主よ、すべてを行われるとき、それがあなたであることを私たちは知っています。あなただけが、私たちのことをご存じだからです。
主よ、あなたの御言葉に感謝します。私たちの時間を祝福してください。イエスの御名によって祈ります。アーメン。主よ、感謝します。
それでは。今夜の 2 つの章は、すべてが絶望的に見えるとき、誰に、あるいは何に希望を置くかという問題について語っています。この時、この時期のユダは、そのような状況でした。これは最後の時です。

バビロン人が都を占領し、人々を捕虜にする前夜です。繰り返しになりますが、これまで話してきたように、エレミヤ書は時系列に並べられてはいません。神によってトピック順に配置されており、同じ問題、同じ事柄について述べている章を前後に並べた神による配置です。そしてまた、今夜の 2 つの章もそうなっています。私たちが見ていくように、ゼデキヤ王を筆頭とする民の絶望は、彼らを偽りの希望に向かわせます。この章から叫びが聞こえてきそうです。ではエレミヤ 37 章 1 節から始めましょう。

ーエレミヤ　37:1ー

ヨシヤの子ゼデキヤは、エホヤキムの子エコンヤに代わって王となった。バビロンの王ネブカドネツァルが彼をユダの地の王にしたのである。

この王は、ネブカドネザルが自分の命令を行うために置いた操り人形の王であり、これがすべてを説明しています。2 節。

ーエレミヤ　37:2ー

彼も、その家来たちも、民衆も、預言者エレミヤによって語られた主のことばに聞き従わなかった。

ーエレミヤ　37:3ー

ゼデキヤ王は、シェレムヤの子ユカルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤを預言者エレミヤのもとに遣わして言った。「どうか、私たちのために、私たちの神、主に祈ってください。」

マジ？　すみません。今、あなたはエレミヤに祈ってもらいたいのですか？　典型的ではないですか？慈悲深くあるべきなんでしょうが。皆さんはきっと、私よりも慈悲深いでしょう。私はそれを認めます。これは、本当に典型的ではありませんか？　彼らはあなたを追い払い、嘲笑し、迫害するのですが、バビロン人が来てギリギリの時、もう終わりかと思われたとき、今度は、祈って欲しいと言うのです。ええ、彼らのために祈るべきなのですが、「ダメだ！」なんて言いますか？　そんなこと言えません。ゼデキヤの絶望感に注目してください。それは卑怯です。皆さん、分かって欲しいと思います。その理由は、彼がまだエジプト人に希望を置いているからです。彼はまだ心の奥底で、エレミヤがメッセージを変えてくれることも期待しています。だから彼は「私たちのために、私たちの神、主に祈ってください」と言っています。訳すと、「何か変わったかどうか、主に祈り、尋ねてください。もしかしたら、神は私たちを憐れんでくださるかもしれない。」なぜなら、エジプト人がユダにいるイスラエル人の敵に対して助けに来て勝ったのは、今回が初めてではないからです。ほとんどこんな感じです。「祈ってくれませんか？...」私たちがいつもすることです。「バビロンに対抗するため、エジプト人が私たちを助けてくれるよう、神に祝福を祈っていただけませんか？」ゼデキヤの唯一の問題は、神がユダをバビロンに捕囚させるとエレミヤが何年も前から預言してきたことです。もしあなたが自分のいのちのために戦い続けるなら、いのちを失うことになります。もしあなたが、神がすでに定められたことに身をゆだねるなら、いのちを救うことになります。しかし、ゼデキヤはそんなこと聞きたくありません。何かが変わるかもしれないと、心の奥底で期待しています。さて、4 節です。

ーエレミヤ　37:4ー

エレミヤは民のうちに出入りしていて、まだ獄屋に入れられてはいなかった。つまり、彼らはエレミヤを獄屋に入れるということです。

ーエレミヤ　37:5ー

また、ちょうど、ファラオの軍勢がエジプトから出て来たので、エルサレムを包囲中のカルデア人は、そのうわさを聞いて、エルサレムから引き揚げたときであった。

ここで示されたことは、本当に重要な詳細です。悲しいことに、初めに読んだときには、簡単に見逃してしまいます。しかし、ユダが安堵感を持つことに関連し、私たちの理解を深めるために、このことは重要な意味を持つでしょう。説明します。今、この分岐点、ギリギリの場面です。最終的な包囲とバビロン人によるユダのバビロンへの捕囚は、もはや時間の問題です。しかし、エジプトが姿を現し、カルデア人はエジプトがユダのために介入する可能性があると聞いていので、エルサレムの城壁の外で、エジプト人に対処するために出て行きました。さて、一緒に考えてみてください。もし私がユダにいたら、私はこう考えます。「わぁ、主よ、感謝します。ふ〜っ！　危なかった。もうロックダウンはしていない。」
おお、そのことを次に見ていきます。ネタバレですが。私たちはエレミヤのように、この 4 節で語られているように、制限が解除されたのです。自由に行き来し、出入りし、好きなところに行けます。カルデア人がエジプト人に対処するために出て行ったので、もう自宅待機の命令はありません。ですから、カルデア人がエルサレムを去り、旅立ったこの短期間の状況を、彼らは容易に、そして実際に誤解してしまい、「わあ、もう大丈夫なんだ。おい、もう元通りになったぞ。」と考えます。まあ、長くは続かないでしょう。
ーエレミヤ　37:6ー
そのとき、預言者エレミヤに次のような主のことばがあった。
ーエレミヤ　37:7ー
「イスラエルの神、主はこう言われる。わたしに尋ねるために、あなたがたをわたしのもとに遣わしたユダの王にこう言え。『見よ。あなたがたを助けに出て来たファラオの軍勢は、彼らの地エジプトへ帰り、
ーエレミヤ　37:8ー
カルデア人が引き返して来て、この都を攻め取り、これを火で焼く。
ごきげんよう。待って、えっ？？　つまり、あなたが言っているのは、私がここで、「よし！私たちは自由に行き来できる！　ロックダウンや自宅待機は解除されたんだ。制限も命令もない。敵は出て行った。そして今度は、あなたはファラオの軍隊がエジプトに戻り、カルデア人がユダに戻ると言っているのですね。ユダの街に戻ってくるだけではなく、ユダの街と戦うことになると。彼らはユダの街を奪い、そこを焼き、ユダの街は火で焼かれると。」
世の中のエジプトに希望を置くと、このようなことになります。エジプトは例外なく世の型です。火傷しますよ、冗談ですが。この世のエジプトに希望を置いていると、いつも焼かれます。なぜなら、ここで明らかに、ユダは人間に希望を置いているからです。
「エジプト人はカルデア人に対して、また助けに来てくれる！」「ここでエレミヤは、私たちが捕虜になり、彼らは都を包囲し、都を滅ぼし、都を焼くと預言している。」そして今、エジプト人が助けに来てくれそうでしたが、それは実現しません。今は、もう大丈夫なんです。居心地がよくなってきて、世に希望を置くところに戻る、と言ったほうがいいかもしれません。世の物事に。「望みのない希望を持ち続ける」という言葉があります。必ず失望することになります。
主に希望を置く者は、決して失望させられることはありません。**（イザヤ 49:23）**
ーエレミヤ　37:9ー
主はこう言われる。（これは興味深いです）**あなたがたは、カルデア人は必ず私たちのところから去る、と言って、自らを欺くな。彼らが去ることはないからだ。**
ーエレミヤ　37:10ー

たとえ、あなたがたが、あなたがたを攻めるカルデアの全軍勢を討ち、そのうちに重傷を負った兵士たちだけが残ったとしても、彼らはそれぞれ、その天幕で立ち上がり、この都を火で焼くようになる。』」
言い換えると、「惜しいね。わたしはそう宣告しました。わたしの預言者エレミヤはそう預言していました。何があっても必ず実現します。また、仮にカルデアの全軍を倒すことに多少なりとも成功したとしても、それでもわたしは、わたしが言ったとおりに実現させます。傷だらけでズタズタでもやります。（想像できますか？）わたしが傷つきながらも命にしがみつく者を立ち上がらせ、彼らは立ちあがり、それぞれ天幕から出て、都にやってきて燃やします。理由を知りたいですか？　なぜなら、わたしがそう語ったからです。それが理由です。」そうでなければ、主が宣告されたこと以外に希望を置くことは、自分を欺くことです。自己欺瞞です。自己欺瞞の意味が分かりますか？　非常に深い意味でありますが、自分自身を欺くことです。私たちは皆、自分の嘘を信じてしまう傾向があります。私たちは皆、自分の罪の性質、つまりアダムの性質の中に、自分を欺く能力を生まれつき持っています。誰かに欺かれているのではありません。自分自身に欺かれています。全能の神以外のものや人に希望を置くことは、欺かれることです。自分自身を欺いているからです。
ーエレミヤ　37:11ー
カルデアの軍勢がファラオの軍勢のゆえにエルサレムから引き揚げたとき、
ーエレミヤ　37:12ー
エレミヤは、エルサレムから出て行き、ベニヤミンの地に行った。民の間で割り当ての地を受けとるためであった。
このこと覚えていますか？　従兄弟から見知らぬ土地を買ったときのこと。これは、おそらくエレミヤが求めていなかった土地の購入ですが、彼は近親者の贖罪者でした。エレミヤのいとこが 3 マイル離れたアナトテからやって来ます。想像してみてください、ユダを、ユダをカネオへに例えたくありません。良い結末なりませんから。では、カネオへをアナトテ、カイルアをユダとしましょう。私はカイルアに住んでいるので、どちらも嫌ですが。島の反対側でもいいですが、要点はわかってもらえると思います。3、4、5 マイルほど離れています。ここでエレミヤが、
「もうロックダウンも、自宅待機命令もない。自由に出かけていいんだ。私は買った土地を見に行こうと思う。それと、この土地について打ち合わせをするようだから、この土地の正当な所有権を主張するために、私はそこにいた方がいい。なぜなら、結局のところ、知らせは伝わり、カルデア人は去ったので、エレミヤが買ったこの土地は、今では何らかの価値があるのかもしれないからです。エレミヤが買ったときには、何の価値もありませんでした。処分することはできず、誰かにお金を払って引き取ってもらうしかありません。そして、エレミヤが信仰によって購入した時、私たちはその背後の理由を知っていますが、エレミヤはこの土地を購入し、今度は彼らがエレミヤからこの土地を奪う方法を考えようとしている可能性があります。だから今、エレミヤはそこに行って、人々の間で自分の所有権を主張する必要があります。では 13 節です。
ーエレミヤ　37:13ー
彼がベニヤミンの門に来たとき、そこにハナンヤの子シェレムヤの子の、イルイヤという名の当直の者がいて、「あなたはカルデア人のところへ落ちのびるのか」と言い、預言者エレミヤを捕らえた。
ーエレミヤ　37:14ー
エレミヤは、「違う。私はカルデア人のところに落ちのびるのではない」と言ったが、イルイヤは聞かず、

エレミヤを捕らえて、首長たちのところに連れて行った。
ーエレミヤ　37:15ー
首長たちはエレミヤに向かって激しく怒り、彼を打ちたたき、こうして書記ヨナタンの家の牢屋に入れた。そこが獄屋になっていたからである。
では。ああ、私はただ…エレミヤは…まず、この時点でエレミヤは、まあ、実際には私と同じくらいの年齢、60 歳くらいでしょう。しかし、当時の 60 歳は今の 60 歳とは違うということを念頭に置いておいてください。それが私の言い分で、こだわりです。当時は 60 歳になるまでに、仮に 60 歳になったとしても、かなりの距離を走っているんです。あなたは過酷な状況を考慮し…当時は大変な生活でした。だから、その頃には何キロも走っているんです。エレミヤは今はもう年寄りです。もう、神が最初に召された時のような 20 代ではありません。約 40 年が経過しました。なぜこれが重要なのか？　なぜなら、エレミヤはいまだに、打ち叩かれているからです。使徒パウロのことを考えます。分かりませんが、もしかしたらこれは…神から与えられた想像力を使って想像するのは、そう簡単なことではないけれども、良いことだと思います。使徒パウロの姿を想像できますか？　彼の顔は傷だらけでした。何度殴られ、石を投げられ、鞭で打たれたことでしょう。キリストの戦いの傷を負ったパウロの姿が目に浮かぶようです。全身に。あえて言うなら、彼の姿を見た人はうろたえたことでしょう。ただただ、醜い顔をしていました。何年も…難破船はどうでしょうか？　それが負担になっているとは思いませんか？　さて、ここでエレミヤの話ですが、彼は多くのことを経験してきました。無傷では出て来れません。ここに高齢のエレミヤがいて、これはまた別の機会の話題ですが、現代において、年長者、高齢者がこれほどまでに虐げられ、見下されているのは恥ずべきことです。彼らをただ、片付けてしまいたいのです。その白髪の中に、たくさんの知恵が詰まっています。これもまた、私の言い分で、こだわりです。だからまず、エレミヤは高齢者であり、叩かれたり殴られたりするわけです。そして、彼らはエレミヤを投獄します。これを少し見ていきますが、しかし、これは普通の牢屋ではありません。これは実は、地下牢です。牢屋に入れられて、そのまま死ぬまで放置されます。
ーエレミヤ　37:16ー
エレミヤは丸天井の”地下牢”に入れられ、長い間そこにいた。
ーエレミヤ　37:17ー
ゼデキヤ王は人を遣わして、彼を召し寄せた。王は自分の家で彼にひそかに尋ねて言った。「主から、おことばはあったか。」（デジャヴの繰り返しです）…エレミヤは「ありました」と言った。
…（ゼデキヤは期待しています。「分かった、何だって？！」エレミヤは言います。）
…そして「あなたはバビロンの王の手に渡されます」と言った。ー（笑）ー
エレミヤが大好きです。ちょっと待ってください。これに関して、お聞きください。非常に重要です。私がエレミヤなら、絶対にそんなことはしません。「今更、冗談でしょう？」私は 60 歳です。当時だと、80 歳以上かもしれません。私は足を引きずって歩いています。体中が痛いです。鎮痛剤、市販の鎮痛剤の類は持っていません。ただただ、常に痛みがあって、痛みで眠れません。まだ傷口から出血しています。ただただ恐ろしいです。そして今、王が私を呼び寄せ、私に尋ねています。密かに、個人的に、
「おい、エレミヤ、何か変わったことは？」ゼデキヤは期待していて、エレミヤがこの空の穴の地下牢で過ごしたことで、態度が調整されただろうと期待しているのです。エレミヤの心も変わり、メッセージも変わるはずだと。私なら誘惑に負けてしまいそうです。正直に言えば。皆さんもそのはずです。自分を欺

かず、自分に正直になるなら。認めなければなりませんね？　そのような環境下で、そのような状況で、私はどうにかしてその痛みを和らげようとしますが、エレミヤは違いました。
「実を言うと王様、私は主からお言葉をいただいております。あなたは死にます。あなたは連れて行かれます。ここに、あなたへのことばがあります。同じことばです。そのことばは変わっていません。神は昨日も今日も永遠に同じであられます。いつになったらそれを理解するんだ、ゼデキヤ？」
今、私はゼデキヤにすごく怒っています。
ーエレミヤ　37:18ー
エレミヤはゼデキヤ王に言った。「あなたや、あなたの家来たちや、この民に対して、私にどんな罪があったというので、私を獄屋に入れたのですか。（質問です。）
ーエレミヤ　37:19ー
あなたがたに対して『バビロンの王は、あなたがたとこの地を攻めに来ない』と言って預言していた、あなたがたの預言者たちは、どこにいますか。」
良い質問です。
「ゼデキヤよ、あなたたち偽預言者は、何年もずっと、私と主の御言葉の預言に矛盾していました。一度でも正しいことがあっただろうか？　一度でも。彼らが醜い口を開くたびに…」意地悪ですね、まぁなんでもいいですが。私はまだ怒っているようですね。でも、これはもちろん義の怒りです。牧師には義の怒りがありますから。彼らは口を開くたびに、嘘をつく口で、こう預言して言います。
「いいや、バビロン人はやって来ない。エレミヤの言うことは聞くな。そんなこと起こらない。」
「彼らが言うように、一度でも起きなかったことがありましたか？」
答え：いいえ。もう１つ質問させてください。もしよろしければ、続きの質問を。
「王よ、私が主の御名によって預言したことは、私が口を開き、主なる神の御名によって語り、預言したことは、ことごとく、起こらなかったことが一度でもありましたか？」
答え：いいえ。一件落着です。
「だから、私に水を差したり、和らげたり、メッセージを変えたりするように頼むのはやめてほしい。これがメッセージなのだから。それは昨日も今日も、明日の朝起きたときも同じです。もしあなたが言い張るなら、私は本当に怒っていますよ、ゼデキヤ。ところで、ゼデキヤはまた同じことをしますよ。もし、あなたが個人的に何か違うことを聞きたいと願って私を連れてくるなら、あなたと私の時間を節約できます。何も変わらないと言うだけです。実際、ネットで預言アップデートの動画を見なおしてみましょう。なぜなら、それは同じことで…」ー（笑）ー　やりすぎました。20 節。
さて、これからが本番です。エレミヤのことを本当に感謝し、尊敬し、愛するべきです。
ーエレミヤ　37:20ー
今、わが主君、王よ、どうか聞いてください。どうか、私の願いを御前に受け入れ、私を書記ヨナタンの家へ帰らせないでください。私がそこで死ぬことがないようにしてください。」
「私は年寄りなんです。」
ーエレミヤ　37:21ー
ゼデキヤ王は命じて、エレミヤを監視の庭に入れさせ、都からすべてのパンが絶えるまで、パン屋街から毎日パン一つを彼に与えさせた。…

そのままのとおりに、道に名前を付けていました。教会街、パン屋街、そこにすべてのパン屋があり、教会がありました。だから、あの地下牢、あの穴、あの空っぽの貯水槽に送り返さないでくださいと。このことについては、間もなくお話しします。エレミヤを監視の庭に連れて行き、パンを与えます。
ということは、これまでは食べるパンさえ与えられていなかったということです。都中のパンがなくなるまで。今、彼らは備蓄品で生活しています。食料も水の供給もカルデア人に断たれ、それが当時の戦略でした。その非常に重要な点についてお話しました。敵が都を破壊する方法は、水の供給を絶つことです。これは時間の問題です。彼らは予備の水や食料に頼らざるを得ず、飢え死にします。だから、彼らは捕らえるのです。それは、敵が私たちの人生の中で行うことです。敵は神の御言葉という水の供給を断ちます。そして、いのちのパンである食料の供給も断ちます。ただ、時間の問題です。あなたは…これは時代遅れですが…そのためのアプリがありますね、ただアプリをスタートさせるだけだと思います。彼らはそれを実行していました。そして、こう書かれています。
ーエレミヤ　37:21ー
…こうして、エレミヤは監視の庭にとどまっていた。
この章は、ゼデキヤがエレミヤの要求を認めることで終わります。しかし、慈悲や憐れみ、共感から行われ、認められたとは少しも思わないでください。違います。なぜゼデキヤがこうしたのか、分かりますか？　そうすれば、自分の手を血で汚すことはないからです。こうすることで、エレミヤの死の責任を自分に負わされることから、出来るだけ逃れようとしているのです。ゼデキヤはそれを望んでいません。このことは、悲しいことに、現代に非常に当てはまります。というのも、死とその死の責任の間に距離があるからです。両者の間に十分な隔たりができます。その原因を指し示すことができません。エレミヤの死が自分の責任であることを指摘されたくないのです。だから、ゼデキヤはこうするのです。だから、エレミヤにこれを認めるのです。では、38 章 1 節です。
ーエレミヤ　38:1ー
さて、マタンの子シェファテヤと、パシュフルの子ゲダルヤと、シェレムヤの子ユカルと、マルキヤの子パシュフルは、エレミヤが民全体に次のように語ることばを聞いた。
ーエレミヤ　38:1ー
さて、マタンの子シェファテヤと、パシュフルの子ゲダルヤと、シェレムヤの子ユカルと、マルキヤの子パシュフルは、エレミヤが民全体に次のように語ることばを聞いた。
想像しながら、読んでください。これは、あざ笑うような、嘲笑するような口調で、蔑むような、軽蔑するような声です。
ーエレミヤ　38:2ー
「主はこう言われる。『この都にとどまる者は、剣と飢饉と疫病で死ぬが、カルデア人のところに出て行く者は生きる。そのいのちは戦勝品として彼のものになり、彼は生きる。』
ーエレミヤ　38:3ー
主はこう言われる。『この都は、必ず、バビロンの王の軍勢の手に渡される。彼はこれを攻め取る。』」
ーエレミヤ　38:4ー
そこで、首長たちは王に言った。「どうか、あの男を死刑にしてください。…
これが理由です。聞いてください。

…彼はこのように、こんなことばを皆に語り、この都に残っている戦士や民全体の士気をくじいているからです。…

「エレミヤのせいで士気が下がっている。」

…実にあの男は、この民のために、平安ではなくわざわいを求めているのです。」

どこから手をつけていいのかわからないくらいです。

では、さっそく飛び込んでみましょう。これはあらゆる面で間違いです。その非難は誤まりです。この誤った告発と預言者殺害の陰謀は、エレミヤがお先真っ暗な預言をするからです。そして、まだカルデア人と戦っている人々の士気を落とし始めています。彼らはまだカルデア人と戦っているのですか？　なぜまだカルデア人と戦っているのですか？　死にたいのですか？　なぜカルデア人に降伏しないのですか？　自分のいのちを救うために戦うなら、自分のいのちを失うことになります。降伏して自分のいのちを失うなら、自分のいのちを救うことになります。それが原理です。それが、ここにある多くの問題の一つですが、根本的な問題は、彼らがこの預言者を黙らせたかったということです。なぜなら、エレミヤが自分たちに語っていることばを聞きたくなかったからです。

「これを最後に、エレミヤを黙らせる必要がある。ここからが本題なのですが、王様。エレミヤは民の幸せを考えていません。」

その逆が真実です。

「その代わりに、民を怖がらせ、落胆させ、弱らせるために害を与えようとしています。」

これ以上、真実の極みから離れられるものかと思うほどです。エレミヤが預言したことは、悲観的なものであり、そうでなければならないものでしたが、付け加えるならば、実は、それは彼らの唯一の希望でした。彼らはエレミヤが悲観的で希望のないメッセージを伝えているとして、不当に非難していました。その逆が真実です。その悲観的なことは起こります。もし何か希望が欲しいなら、これから逃れる唯一の希望は、神の御言葉です。つまり、私たちの場合、教会の携挙のことです。日曜日にお話しします。ところで、日曜日ですが、…ああ、…　もし、この 1 週間に何が待ち受けているのか知っていたら。今朝だけでも…、ぜひともお祈りをお願いします。この日曜日の預言アップデートは、少なくとも私が覚えている限り、かなり長い間行ってきた預言アップデートの中で最も激しく、あえて言えば重要なものになりそうです。この 1 週間の出来事を追っている人たちにとっては、息を呑むような出来事です。息を呑むほどです。

そこで、預言アップデートのタイトルを「預言の窮地に立たされる」としました。それはすべて預言されたデザインである、と言えるでしょう。お先真っ暗なことが保証されています。お望みなら、献金をお返しします。しかし、それは真実です。それは私たちを希望に導くはずです。

「ユダよ、エレミヤがあなたを脅すために、ずっとこのような預言アップデートをしてきたと思うのですね。違います。これは主の御言葉による回復の希望に備えるためです。真逆です。」

ここで、手短に一つ。時間は意識しています。私たちがここに移住し、預言アップデートを始めた時のことを覚えています。何年経ったでしょうか、17 年以上ですか？とにかく。インタビューを受けて、聞かれることがありました。テレビ放送やラジオ放送で。

「聖書預言について話すとき、あなたは人々に希望を与えますよね？　なぜなら、聖書預言の同義語は、破滅、暗黒、火、硫黄、裁き、死、都を焼く、だからです。」私はいつもその当てつけ、あるいは非難に引きずられてきました。それはあらゆる面で間違っているからです。なぜならば、その意味するところ

は、「聖書預言の話をしても、人々を励まし、希望を与えることにはならない」と。これこそが、聖書預言を教えることが成すことです。それが唯一の希望です。エレミヤはこう言っています。
「聞いてください。もし希望が欲しいなら、あなたの唯一の希望はこれです。元気を出してください。」
彼らはエレミヤを非難し、殺そうとします。
ーエレミヤ　28:5ー
するとゼデキヤ王は言った。「見よ、彼はあなたがたの手の中にある。…
ゼデキヤは、「よし！」とばかりに座っているのでしょう。なぜなら、ゼデキヤがエレミヤを探し、エレミヤに個人的に尋ねた時、
「おい、何か変わったことはないか？主から何かことばはないか？」
「はい、あります。実は、あなたは死にます。何も変わっていません。」
だからゼデキヤは、エレミヤの死が自分の責任になるのが嫌だったのです。そこで、ゼデキヤはここで何をするのか？　これはゼデキヤにとってエレミヤの死から再び手を洗う絶好の機会です。
「見よ、彼はあなたがたの手の中にある。あなたがたが何をしようと、それは私の責任ではない。」
ーエレミヤ　38:5ー
…王は、あなたがたに逆らっては何もできない。」
ーエレミヤ　38:6ー
そこで彼らはエレミヤを捕らえ、監視の庭にある王子マルキヤの穴に投げ込んだ。…
（この詳細を見てください）
…彼らはエレミヤを綱で降ろしたが…
わお…待ってください。なぜエレミヤをそこに投げ捨てて死なせなかったのか？　エレミヤはすでに弱く、衰弱し、老い、怪我をしています。なぜ彼らは、綱で降ろしたのでしょう？
答え：彼らは、エレミヤがゆっくりと、残忍に、残酷に、苦痛に満ちた死を遂げることを望んだのです。もし彼らがエレミヤをその空の貯水池に投げ入れたなら、そこはかつて水で満たされていましたが、今は遮断され、水がなくなっているのですが、そこに残っていたものを間もなく見ていきますが、地下牢には水はなく、泥沼がありました。それはただの空の貯水池で、とても深く、とても冷たく、とても暗くて、泥でいっぱいです。エレミヤは泥沼に沈みました。そうすれば、エレミヤの死で自分達の手を汚さなくて済むからです。もし、あそこに放り込んでいたら、殺したのは自分たちの責任になります。
「いいえ、私たちは殺していません。私たちは非常に憐み深いので、ただ綱で降ろしただけです。そして、誰もが地下牢で死ぬように、エレミヤも地下牢で死にました。だから、私たちを責めることはできません。」
では、手短にここでもう一つ。無実の人間を非難し、殺すことに屈服するこの姿は、神の人に同じことをするピラトを彷彿とさせます。
「私はこの人に何の非も見いだせない。」（ルカ 23:4　参照）
ピラトはゼデキヤと同じように、自分の手を洗おうとしました。より雄大で偉大な方法で、十字架上のイエスの死から明らかに距離を置こうとしました。そうすれば、自分の手を汚さずに済むからです。そこで彼は、キリストの死の責任を自分の足元や手に負わせないために、それをユダヤ人に負わせました。
あるコメンテーターがこのように指摘したのが気に入りました。私はここでまたゼデキヤに怒ってしまうので、気をつけた方がいいかもしれません。落ち着いてきたばかりなのに。この男は、ずるい人です。

ゼデキヤは弱くてずるい。できればもう２つくらい「w」から始まる悪い単語を見つけたいのですが、皆さんが協力してくれるかもしれませんね。この男は、なんと臆病者なんでしょう。なんと弱虫なのでしょう。男ですらありません。ネズミです。あるコメンテーターは、
「彼にはバックボーンがなく、ウィッシュボーンがある。」と言いました。そう、ゼデキヤは願い、期待します。
「いいよ、あなたたちがしたいようにすればいい。エレミヤはあなたの手の中にあるから。私は何も言えません。私はあなたたちに逆らっては何も出来ない。自分の手を洗います。どうぞ、何でもしたらいい。私の責任じゃないから。」
さらに酷くなります。7節です。この素晴らしい人物を紹介します。エベデ・メレクさて、これは彼の名前とは限りません。肩書きの可能性もあります。なぜなら、エベデ・メレクとは、「王のしもべ」という意味だからです。彼はエチオピア人で、王の家にいた宦官の一人であったと言われています。
ーエレミヤ　38:7ー
王宮にいたクシュ人の宦官エベデ・メレクは、エレミヤが穴に入れられたことを聞いた。また、そのとき王はベニヤミンの門のところに座っていたので、
ーエレミヤ　38:8ー
エベデ・メレクは王宮から出て行き、王に告げた。
ーエレミヤ　38:9ー
「わが主君、王よ。あの人たちが預言者エレミヤにしたことは、みな悪いことばかりです。彼らはあの人を穴に投げ込みました。もう都にパンはありませんので、あの人はそこで飢え死にするでしょう。
ここで王は…ゼデキヤを想像できますか？　ああ、彼にはそのすべてが当然です。「私はただ…この男を追い払ったと思ったのに！なのに、エチオピア人がやって来た。」すると王は、クシュ人エベデ・メレクに命じた。「あなたはここから三十人を連れて行き、預言者エレミヤを、まだ死なないうちに、その穴から引き上げなさい。」
ーエレミヤ　38:11ー
エベデ・メレクは人々を率いて、王宮の宝物倉の下に行き、そこから着古した衣服やぼろ切れを取り、それらを綱で穴の中のエレミヤのところに降ろした。
その理由は、ここですぐにわかります。皆さんに注目していただきたいことがあります。それは、言葉は悪いですが、非常に大きなことです。今日、今夜の学びの準備をしていて、本当にそのことが心に残りました。このことを考えてみてください。神は、希望に満ちた外国人を使って、悪意ある王が絶望的に欺かれているところから、神の預言者を絶望的な穴から救い出されました。分かりましたか？　こんな言葉があります。「誰が真の友なのか、必ず分かるようになる」ここで少し、エレミヤについて話しましょう。エレミヤは、私やあなたのように実在した人物だからです。エレミヤには感情があります。エレミヤは本当に傷ついていて、肉体的にだけではなく、感情的にも傷ついていたことを知らなければなりません。彼は非常に落ち込み、文字通り泥沼の中にいます。つまりエレミヤは、彼の前の多くの神の人たちのように、「もういいや」という段階だったのかもしれません。エリヤのことを考えます。
「分かりました、主よ。もういいです。もう私を殺してください。ただ私を殺してください。」
使徒パウロは…ところで、これは私に大きな励みとなります。エリヤや使徒パウロのような人物の話を読むと、彼らを例に挙げますが、使徒パウロが「生きることさえ絶望した」というようなことを書いてい

るのを読むと、パウロは「もう生きたくない」と。それほど酷いのです。ヨブも同じです。彼らは良い仲間です。それは話に書かれていないけれども、私は信じています。エレミヤがそこに降ろされて、こう考えたと信じています。
「ああ、主よ、私は大きく人生を犠牲にして、あなたの召命を忠実に守りました。でも主よ、私は揺るぎませんでした。今、私はここにいます。」
ところで、エレミヤの前にいたヨセフのようです。彼もまた、穴の開いた地下牢に投げ込まれ、死ぬまで放置された人です。(創世記 39:20 参照)
これらの人物を知らなければなりません。もう一度、自分の恥を認めなければなりませんが、もし私がその穴の中にいたら、私は文句を言い、神に問いかけます。
「なぜですか？　ここで、私はあなたに忠実に仕えてきました。私は揺るぎませんでした。そして、私はこの穴の底にいます。」
これは基本的に、エリヤがしたことです。繰り返しになりますが、だからこそ、私はエリヤのような人のことを本当に好ましく思い、励まされます。私も同じことをしてしまうでしょうから。エリヤは文句を言いました。「主よ。」エリヤは神から逃げ、死ぬことを願いました。バアルの預言者たちに対する奇跡的な勝利の直後に、アハブとイゼベルから命を狙われることになったのです。洞窟に隠れているエリヤのところに神がやってきて、神はその答えをご存じですが、こう仰います。
「エリヤ、ここで何をしているのか？」(Ⅰ列王記 19:9 参照)
私なら、「誰だってどこかにいるはず。私はここにいます。」と言うでしょう。ー(笑)ー　言ったでしょ。
「主よ、あなたがなぜ私がここにいるかご存じです。主よ、一体何が起こっているんですか？　私はこれらすべてを行いました。今、私はここにいて、私は…」エリヤは神に失望しています。
彼は、神がアハブとイゼベルをも殺されることを完全に期待していました。しかし、神はそうされませんでした。エリヤは幻滅しています。不満を抱いています。エリヤはずっと忠実でした。そして、主は彼に答えられます。
「エリヤ、わたしはあなたのようにバアルに膝を屈めない 7000 人を残している。(Ⅰ列王記 19:18　参照) 立ち上がりなさい。ここから出て行きなさい。動き出しなさい。」
そこまで話すつもりはありませんでしたが、これ以上話す時間はありません。そうしたいのですが。この時点での、エレミヤの事が気になりました。エレミヤは希望を捨てたのでしょうか？　この時、エレミヤはこのエチオピア人を見て、おそらくこの男を知っていたのでしょうが、どんな感じだったのでしょう。突然、30 人の部下を引き連れてこの男が現れたのです。なぜ 30 人なのか？　これは重要な情報だからこそ、本文の中に書かれています。この人たちは、あまり食べるものがなく、とても痩せています。非常に弱っています。もし泥沼にはまり込んでしまったとしたら、そうなのですが、あの井戸や貯水池、泥沼から彼を救い出すには、それだけの人数が必要でした。
ーエレミヤ　38:12ー
クシュ人エベデ・メレクはエレミヤに、「さあ、古着やぼろ切れをあなたの脇の下の綱に当てなさい」と言ったので、エレミヤがそのとおりにすると、
ーエレミヤ　38:13ー
彼らはエレミヤを綱であなから引き上げた。こうして、エレミヤは監視の庭にとどまった。
もう一度、興味深い詳細ですよね？　なぜか？　なぜなら、このエチオピア人は賢明にも、もし綱を

下ろし、エレミヤがその年齢でその綱を腕の下にはさんだなら、彼がはまっていた泥の圧力と吸引力で、彼の腕を引きちぎってしまうだろうことを知っていたからです。少なくとも、すでに負傷している彼の体に大きな傷を負わせることになでしょう。ですから、エベデ・メレクはまず、古着を降ろします。その綱を、エチオピア人を見たときのエレミヤを想像してみてください。衣服やぼろ切れを使った綱が降りて来るのです。エレミヤはなぜそれが降りて来たのかをよく分かっていると思います。だから、それを脇の下に挟み、エレミヤは傷を受けません。30 人、いや、エベデ・メレクを入れると 31 人の男たちが、脇の下に衣服やぼろ切れを付けたエレミヤを綱で引っ張り上げようとするとき、その圧力から本当に身を守る役割があるでしょう。そして、エレミヤを脱出させます。つまり、年老いて弱り、飢えてか弱い、忠実な預言者エレミヤを救い出す配慮と憐れみです。

ーエレミヤ　38:14ー

ゼデキヤ王は人を送って（ああ…またです）預言者エレミヤを自分のところ、主の宮の第三の入り口に召し寄せた。王がエレミヤに、「私はあなたに一言尋ねる。…

デジャヴの繰り返しです。またです。

…私に何も隠してはならない」と言うと、

ーエレミヤ　38:15ー

エレミヤはゼデキヤに言った。「もし私があなたに告げれば、あなたは必ず私を殺すのではありませんか。私があなたに忠告しても、あなたは私の言うことを聞かないでしょう。」

これは「お手上げ状態」の典型的な例です。「頼みますよ、あなたは私を殺す気ですか？　ゼデキヤよ、文字通りあなたは私を殺す気です。あなたは一体何を考えているんですか？　何を期待しているのですか？　ああ、あなたが期待していることは分かっています。あなたは私をここに連れて来て、もし私があなたに真実を話せば、あなたが期待していて、聞きたいことではないので、あなたは私を殺すでしょう。殺さなかったとしても、あなたは私に耳を傾けないでしょう。なのになぜ、煩わせるのですか、ゼデキヤよ。では、神の御言葉、預言のビデオを再生してみましょう。」しかし、ゼデキヤはまだ違う展開を期待しています。あまりに急いで、彼を厳しく非難しないように。これはこんにちも健在だと、同意されますか？　私はただ、不思議に思います。お許しいただきたいのですが、しかし、私たちはまたしても、選挙に希望を置くという経験をしたばかりです。違う結果になることを期待して。仮に、理論的にはそうだとしても…「私たちは、この男を大統領にするんだ！」？！　そうですか。あそこも行ったし、それもやった。T シャツと帽子も買った。二つ買ってお値段一つ分。違います。何も変わりません。あなたはまだそこに希望を置いているのですか？　燃やされてしまいます。神の御言葉の権威によって、私はあなたに約束します。あなたはまだ違う結果を期待しているのですか？　分かりました、ゼデキヤ。また怒ってしまいました。

ーエレミヤ　38:16ー

そこでゼデキヤ王は、ひそかにエレミヤに誓った。「私たちの、このいのちを造られた主は生きておられる。私は決してあなたを殺さない。また、あなたのいのちを狙うあの者たちの手に、あなたを渡すことも絶対にしない。」

ーエレミヤ　38:17ー

すると、エレミヤはゼデキヤに言った。…

さて、ここです。

…「イスラエルの神、万軍の神、主はこう言われる。『もし、あなたがバビロンの王の首長たちに降伏するなら、あなたのたましいは生きながらえ、この都も火で焼かれず、あなたもあなたの家も生きながらえる。
ーエレミヤ　38:18ー
（しかし）あなたがバビロンの王の首長たちに降伏しないなら、この都はカルデア人の手に渡され、火で焼かれ、あなた自身も彼らの手から逃れることができない。』」ゼデキヤは何か違うことを期待していたと思いますか？　もちろんそうでした。エレミヤのこの返答は、エルサレムにとっての唯一の”希望”（キーワード）、それは避けられないものに降伏することでもたらされるものでした。私たちは、戦い続けたいんですよね。私たちは、この世界を生命維持装置で維持したいのです。そうですね？　私たちはこの国を守りたいのです。私は今、非常に危険な場所に足を踏み入れていることを自覚しています。「私たちはアメリカを救いたい！」えっと、私の聖書には、何が起こるのか、それは避けられないことだと書いています。あなたはそれと闘いたいのですね？　どうぞ。戦いたいのですね？　戦い続けてください。これを続けてください。私は違います。私はすでに結末を知っています。どんな試みも努力も…エネルギーと時間と財源の量を考えるだけで…だた時間だけでも…時間について話しましょう。どうか許してください。あと少しで終わるので、お願いします。皆さんの忍耐に感謝します。ただ時間のことを考えます。お金のこと、その他すべてのことは忘れてください。選挙に費やされた時間だけでも。何のために？　何のために？
「ああ、牧師さん、またですか。投票すべきでないと言うのですか?」いいえ！！　私が言っているのは、もししたければ投票してください。しかし、選挙に、もしくはあなたが投票した人に希望を置かないでください。生命維持のための戦いをやめてください。それは避けられません。手放してください。私は本当に困ったことになっています。ほら、来週がないんだから、来週の分を埋めないと。では 19 節。
ーエレミヤ　38:19ー
しかし、ゼデキヤ王はエレミヤに言った。…（よく聞いてください）…「私は、カルデア人に投降したユダヤ人たちのことを恐れている。カルデア人が私を彼らの手に渡し、彼らが私をなぶりものにするのではないか、と。」
ーエレミヤ　38:20ー
エレミヤは言った。「カルデア人はあなたを渡しません。どうか、主の御声に、私があなたに語っていることに聞き従ってください。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたのたましいは生きながらえます。エレミヤは本当に気にかけています。そうではないですか？　しかし、ここでまた出てきます。21 節。
ーエレミヤ　38:21ー
しかし、もしあなたが降伏するのを拒むなら、これが、主が私に示されたことばです。
ーエレミヤ　38:22ー
『見よ。ユダの王の家に残された女たちはみな、バビロンの王の首長たちのところに引き出される。聞け。彼女たちは言う。あなたの親しい友たちが、あなたをそそのかして、押し切った。あなたの足が泥に沈むと、彼らは背を向けた。
ーエレミヤ　38:23ー
あなたの妻たちや子どもたちはみな、カルデア人のところに引き出され、あなた自身も彼らの手から逃れることができずに、バビロンの王の手に捕らえられ、この都も火で焼かれる。』」（※あなたはこの都が

火で焼かれる原因となる）
ーエレミヤ　38:24ー
ゼデキヤはエレミヤに言った。「だれにも、これらのことを知らせてはならない。そうすれば、あなたは死なない。
ーエレミヤ　38:25ー
もし、あの首長たちが、私があなたと話していたことを聞いてあなたのところに来て、『さあ、何を王と話したのか、教えろ。隠すな。あなたを殺しはしない。王はあなたに何を話したのか』と言っても、
ーエレミヤ　38:26ー
あなたは彼らに、『王がヨナタンの家に私を返し、そこで私が死ぬことのないようにと、王の前に嘆願をしていた』と言いなさい。」
ここで何が起きているんでしょうか？ゼデキヤは、いつものように、神が自分に起こると宣告されたことよりも、人々が自分をどう思うかを気にしています。それを、「人への恐れ」と言います。それは落とし穴で、罠です。人を恐れているため、人を喜ばせることが唯一の希望となります。
ーエレミヤ　38:27ー
首長たちがみなエレミヤのところに来て、彼に尋ねたとき、彼は、王が命じたことばのとおりに彼らに告げたので、彼らは彼と話すのを止めた。あのことは、だれにも聞かれていなかったのである。
何を言われたのか、目撃者はいませんでした。
ーエレミヤ　38:28ー
エレミヤは、エルサレムが攻め取られる日まで、監視の庭にとどまっていた。
それが鍵です。この章の終わりと聖書の学びの終わりは、なんと驚くべきものでしょう。最後に、将来と希望を持つエレミヤと、どちらも持たないゼデキヤの対比に注目してください。それが重要な点です。簡略化しすぎかもしれませんが、私たちは誰に、あるいは何に希望を託してきたのか、そのことを最後にお話しします。私たちはまだ希望を持ち続けているのでしょうか？　私たちはまだ希望にしがみついているのでしょうか？　もしそうなら、その希望は何に、誰にあるのでしょうか？　かなり明白だと思います。そして悲しいことにゼデキヤは、彼らが来るとエレミヤが預言したとおりに、主の御言葉に従って、まさに連れて行かれることになります。そして、最後に希望を持っていたのは誰だったのか。エレミヤです、エレミヤ。ああ、神は本当に良いお方です。カポノ出て来て下さい。皆さんお立ちください。
今回もお付き合いいただきありがとうございました。ちょっと長くなってしまいました。そんなことしたことないのですが。繰り返しますが、来週はお休みですから。それが私の言い分で、こだわりです。
主よ、わぉ…ただただ、わお…本当に言葉になりません。今夜はなんと力強い教訓でしょうか。
主よ、私たちがここで聞いた御言葉が、耳に入らなかったり、心が硬くなったり、鈍ったりしないことを、私は祈り信じます。なぜなら、この２つの章で見たこと、特にこのゼデキヤで見たことは、私たち一人ひとりの中にもあり、この世に希望を持ち、人に期待する者だからです。数え上げればきりがないほどです。徹底的に。ですから、主よ、最後にお願いします。私たちは、聖霊によって、あなたが今これを受け取り、それがどんなに大変でも、困難でも、不快でも、罪が示されても、そのプロセスを始めることを、本当に期待し、あなたに頼ります。ただ、それを私たちの人生に適用し、その祝福を心に刻む、そのプロセスを始めてください。主よ、エレミヤを感謝します。この人物と、この人物の記録に本当に感謝します。主よ、感謝します。あなたを本当に愛しています。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオへ

http://www.calvarychapelkaneohe.com/

Calvary Chapel Kaneohe47-525Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii　　筆記 hukuinn7